

2022 年度(秋学期) 国際関係論専攻 調査・研究助成 調査報告書

受給者: ke yejia

所属: 上智大学大学院博士後期課程グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻

研究課題: 中国辺境村におけるベトナムヌン族女性移民が再生産労働に形成される
アイデンティティ人種とジェンダーの交差

調査背景

本研究は研究地域としての中国広西チワン族自治区崇左市大新県碩龍鎮徳天村（ソウロン鎮デティン村）は中越国境間の辺境村である。ベトナムカオバン省重慶市ダムトイ（潭水）社と隣接しており、両地は帰春川という幅 10 メートルの国境沿いの川で隔てられているだけである。

徳天村に居住している村民は全員壮族である。彼らと現地に移住してきベトナムカオバン省出身ヌン族女性は同じ言語、習慣、文化を持つ同系の民族である。このため、徳天村に移住してきたベトナム人ヌン族女性が少くない。しかし、不法な越境方法と事実婚の現状で、彼女らは全員不法滞在者である。

受給者の従来調査によって、中越の歴史的な原因により、ベトナムヌン族結婚移民女性は村内に軽蔑されていることがわかってきた（ベトナムヌン族移民としての集団的なイメージ）。しかし、それらのベトナムヌン族女性移民を村に、家庭内の地位を個体として考察すると地位差があることを発見した。

研究目的

ベトナムヌン族結婚女性移民のアイデンティティをソーシャル・リプロダクションの視点で明らかにすることを目的とした。具体的には、ベトナムヌン族女性移民が再生産活動（本研究では出産と子育てを集中的に検討する）により形成されるアイデンティティが、どのようにジェンダーと人種によって構成されているのかを明らかにする。

調査方法

本研究は、文献調査とインタビューを取り上げた。インタビュー調査期間は 2023 年 1 月 21 日—2 月 24 日までの約一ヶ月である。調査期間中、主に徳天村におけるベトナムヌン族結婚移住女性と家族と SNS（ウェイチャット Wechat）を通して行なった。その中で、1 月 21 日、22 日と 2 月 4 日、5 日は研究対象とする壮族にとって重要な祭りなので、この際のインタビューをビデオ的な形で行った。インタビュー内容については、本稿はベトナムヌン族結婚移住女性が徳天村でのインテグレーションで、地元血筋の子供の出産有無が影響を与えているかを明らかにした。

調査結果並びに成果(何をどこまで明らかにしたか)

1. 国籍によって構築されている人種的再生産不平等ⁱ

従来の研究では、人種とジェンダーの交差に再生産不平等が形成されていることを指摘されている。受給者は調査によって、研究対象とするベトナムヌン族結婚移住女性はホスト社会のマジョリティ壮族と同じルーツを持つ同系の民族としても、国籍の違いによって、ホスト社会で再生産不平等を受けることが明らかにした。

前述の調査背景のところにも述べているように、徳天村におけるほとんどのベトナム人結婚移住女性が事実婚である（公式部門に婚姻届を出していないこと）。これは彼女らの国際結婚がホスト社会中国に法律によって保護されていないこと、または彼女らがホスト社会に合法的なシティズンシップを持っていないことを意味している。つまり、彼女らがホスト社会で生き残ることができるかどうかは、ホスト社会（村）の社会的関係に依存しなければならない。

特に、子孫繁栄を重視している中国農村社会では、後世を継がせることが依然として嫁の最も重要な役割であると言える。したがって、嫁は不妊のため婚家から追い出された事例もしばしばある。

したがって、本研究対象としてのベトナム人ヌン族女性に対して、出産に經由して、自らが婚家ないしホスト社会に生存基盤を固めになることに言える。不法滞在者としてホスト社会に生活している彼女らに対して、子供はホスト社会に生存するためのヒューマン・ビザⁱとも言える。

しかし、受給者は調査によって、他所からやってきたそれらの中国人壮族女性が嫁入り社会での生存基盤は市民権と婚姻法により提供していることがわかってきた。このために、他所から同じのホスト村に嫁入りした中国人壮族女性はそれらのベトナムヌン族女性移民より生産権力を持つことがわかってきた。

ⁱ Loretta Ross; Lynn Roberts; Pamela Bridgewater; Whitney Peoples; Erika Derkas 2017. Radical Reproductive Justice: Foundation, Theory, Practice, Critique. The Feminist Press at CUNY